

289.1
1

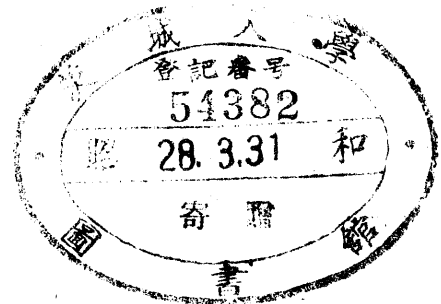
第四十八條

仰望節錄終

仰聖節附錄

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

289.1
2



仰望節録附餘

目次

博愛 第一條

好古 第二條

醫療 第三條

仙巖園中八首園外八首 第四條

享和二年 日本史一 御家傳補入始末記事 第五條

鶴人參とゝる 第六條

蟲蝕紫胡灰議と 第七條

始て羊毛と織 第八條

目次

蓬山花木記 第九條

存真圖譜 第十條

質問本草の因 第十一條

和泉式部琵琶の縁起と考 第十二條

自修導引圖序 第十三條

再圖叢と記 第十四條

茉莉花と辨じ 第十五條

本府聖廟 第十六條 忍岡塾記附

中山聖廟 第十七條

本府醫學院 第十八條

神農祭日 第十九條

關帝祭日 第二十條

附餘

仰望節録附餘目次終

仰望節録附餘

福壽亭梨本

臣曾繁謹纂輯

博愛 第一條

昔人云人心象膽世事類肝云是象膽ハ年ことにかんり類
 肝は月ことおかをぶ人心世事のいさくはゆく遷りかを
 ぶる喻一さり臣繁三十餘年前より勤仕して若若侍臣の
 仕ふぶと見ふふ多能の人ハ 公の時をゆくお好ませお
 ぶ游藝はやく學いえく下風に從ひ馬氣危敷えんとを
 るとのおちく或ハ除目世事あるいハ志業良否或ハ古玩
 鑑識あるいハ游戲浮談ともく慰め奉るもありま一或ハ

第一條

直實不言あるいハ無事不能ぬして仕ふるを河よりこれた
ふトからぶゆこと面れあどく公の諸臣一恤致しん玉
ふこと甲乙一般よして比年かはることあし臣槃の如き
は侍醫ふんとはゆめより未技れ筆硯灰以て刀圭をとら
どまし他技ふけきと三十餘年間恩遇を蒙こと始終か
らげふ君恩天といとし是其博愛れ深くして且渝タラざ
ふこと仰て志致し賢哲れ語ふ博愛こきを仁といふ固
より文物典章に至りてハ猶一定しと變らざ

好古 第二條

公嘗てより古色の物を好ませ玉い古器古書画及び古玩

附録

古印の類ゆいとりてハ文庫ゆ盈たり我邦ハ弁置て神
代れとのに及び彼邦ハ宋元五季の物ハかりとめぬ人
わちしめしめて唐さて晋さて漢さて秦さて三代の志と
に及びしまづり遂ふハ女媧氏れ煉る五色の石をも尋
まさせ玉ふ如ぬりぬふが近き比ハ其事ふつぬ罷たま
の庫中れ寶器寶玩をもづく公子つち賜ひゆけ玉其
餘ハ聚珍寶庫ゆ儲藏し過て珍翫し玉ふ事あり是緒然と
して好古の癖を棄たまふこと雲煙の眼ゆ過江河れ海ゆ
融ゆがごとくびと爽々たる君子れ御操ぬり臣槃謹てた
とい奉るにこれ攝生第一の良法なりまし私こゆおもふ

吾の傳ふありて物のふふたをえんとを致しいとわし
こをせうるは但己の心ふありて物はあらばこれ心ふ
らば其物を集るは何かを何らん

醫療 第三條

公嘗て醫術を好む常に海外得難きの藥を儲け不虞ふ備
ふ時享和年間江戸日本橋本小田原町は魚估柳屋傳六
といふとのあり彼は娘せし年十一二ふりて多骨瘡を患
ひ世醫かた致ぐ百藥を用むかど其志ふし終り同商鯉
屋藤左衛門ふ憑て治療を福かひけふ 公との奇病を愍
たまひ診候 臣某 命し荷蘭方は金石火煉の藥を施

附録

一凡四年にして愈ゆ 蕃人之を借え 又癩癩を治むる靈劑
河里大人小兒あひの病あまは施し治ふ二十に八九ハ驗河
りまは享和年間は大崎村の別墅ふ逍遙しわし時伐木
此丁夫丁草を剝うちむれ煮くらひけるふ皆其毒ふ醉
て煩懣なたえむあのこと侍臣よりきこしめて侍醫某
とて頃ふ礬石水液與つしむるふ其毒忽に醒たり 石見の國
人言礬石の毒ふ中るものあまは醗醋を飲しめ吐液得て
即愈し按るふ此方本草綱目醋の附方ふえたり是礬石
と醋と其効用し 謹て按るふ此方ハ清の王械が秋燈叢話
稍相似たり 公もよく見備ししりあは他の治験比々枚
ふみえたり 公は治術ふ精にして民の疾苦を愍むその潛
舉ふ堪む 公は治術ふ精にして民の疾苦を愍むその潛

第三條

德の深きこと仰てゑるべし。呂東來云憂病之難治而不憂術之未精者是天下之拙醫也。今の醫師此志業を見るふたわくいかぐみごとく方考孺遜志齊集醫原中載諺曰山川而能語、葬師食無所藏府而能語、醫師色如土此言用藥之難也。又顧炎武日知錄云古之醫者殺人亦能活人今之醫者在於不死不生之間。

仙巖園中八首 第四條

鳴雨泉

外史曹謙光

山脉通源日夜流淋々似雨響園秋烹來石鼎供茶話七椀邀盧一咲休

赤松林

雲南學政吳俊

虬枝低亞翠成堆未受秦封次第栽薄暮擁濤風影動疑撐月到薩摩來

騰蛟石

翰林庶常出知福寧刺史江琅

雲根拔地幾何年形肖蛟騰却宛然千古青蒼冠名勝每逢風雨似昇天

香楓巖

經筵講官戶部尚書董誥

春風吹醉早楓丹夾岬香來到曲欄此景獨餘海外有神僊應羨是奇觀

脩竹徑

吏部右侍郎順天學政金士松

第四條

琅玕千萬立成林細路通人幽境深傍午不知過赤日清涼慣
透愛吟心

番蕉邱

翰林院修撰汪如洋

培成翠碧帶山腰葉々迎風鳳尾搖也抱歲寒心似鐵不驚飛
雪響蕭々

荻蒿叢

翰林院編修范來宗

歷亂秋風影不齊含煙和露隔花溪莫嫌寂寞蓬蒿逕慣遺高
人遠托栖

葡萄架

翰林院編修加一級嚴神

漢使西歸味共探移栽嘉種遍東南結陰成架初添竹珠帳草

附餘

龍護碧嵐

仙巖園外八首

管神廟

御史李黎

巍然神宇白雲邊靈爽憑依別有天洗淨塵緣留好景楓香蕉
色寺門前

櫻花溪

太守王文治

張家紅粉擅風流圖畫天然到練洲好賺漁郎成問訊一溪春
滿海東頭

龍洞院

兼宣布政司王昶

天平遙對院門青四月寒生古樹林噓氣成雲迷洞府蒼苔冥

莫鎖層陰

飛鳥道

大學士嵯璜

仄逕垂空界碧山人依飛鳥試躋攀紅塵不到芭鞋底徐度松雲幾疊關

朝夕池

主事顧宗泰

羣峰環抱一泓秋水落水高早暮流正合僊園人竚足果然身已到瀛洲

匹練洲

侍郎蔣元益

雲羅霧縠影相將疊雪輕勻帶水鄉倘倩白魚拋玉尺量來應有幾多長

附餘

天平山

翰林院編修梁同

高峰儼興碧霄齊矗立當空萬象低絕頂徘徊天闕近何須更上步雲梯

海聞山

侍讀學士彭紹觀

海門兀峙鎖洪濤能抗前津風怒號萬里乘潮客出入王鯨隱隱與金鼈

享和二年十月 日本史御家傳補入之儀市田勘解由

後被申渡之扣 第五條

日本史將軍家臣傳中不吉見系譜と引て云忠久廣言之子非頼朝之子也と志るされたり